

廃タイヤリサイクル状況推移

資料出典;JATMA(日本自動車タイヤ協会)

●廃タイヤ発生状況

単位:100万本

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	前年差
廃タイヤ発生量	タイヤ取替時	72	76	79	78	78	0
	廃車時	13	14	12	12	11	▲1
	合計	85	90	91	90	89	▲1

有効利用量の推移

単位:千トン

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	前年差
製紙工場	412	425	433	476	413	▲63
化学工場	96	112	136	113	104	▲9
セメント工場	69	73	81	67	60	▲7
中小ボイラー	2	3	5	5	2	▲3
タイヤメーカー各社	2	2	3	2	1	▲1
熱分解施設	10	1	2	1	3	2
再生ゴム・ゴム粉	115	84	85	88	89	1
原形加工利用(鉄原料含む)	1	1	15	24	20	▲4
製鉄工場	16	17	0	0	0	0
有効利用量	723	718	760	776	692	▲84
非有効利用最終処分量	5	11	14	6	3	▲3
有効利用率(%)	99.3%	98.5%	98.2%	99.2%	99.6%	—

<留意事項>

- ①更生タイヤは廃タイヤにならず、発生量・有効利用量に直接影響がないことから外しています。
- ②従来は廃タイヤ発生量・リサイクル利用量を別のデータソースから求め、その推定値を基にリサイクル率を算出していましたが、より一層実態に即した数字を示すため、廃タイヤ処分量に占める有効利用量を有効利用率として算出しています。